

「散歩したくなる商店街のデザインの提案」

静岡文化芸術大学 デザイン研究科/デザイン学科 礒村克郎研究室

指導教員：礒村克郎

参加学生：山本歩乃(M1)、鈴木翔太(学部3年)、中田きらり(学部3年)

1 要約

下田市は人口約2万人の伊豆半島南部東側に位置する都市である。1854年に日米和親条約の締結の際、函館と共に開港され、ペリー提督艦隊が入港したことで知られている。昨年度の研究では、モデル事業とした下田市観光案内所の役割や周辺地区との関わり方について検討し、観光客を中心市街地へと誘導する仕組みを作ることを提案した。

本研究は、その提案の改善とともに、中心市街地全体の歩行環境や観光体験のデザイン提案を行った。

2 研究の目的

下田市は現在、中心部の観光客数の減少とともに、中心市街地の衰退が問題となっており、町の活気が失われている。昨年度には下田市観光案内所が有効に使われるよう、観光客を伊豆急下田駅から下田市観光案内所、そして中心市街地へと誘導するための提案を行った。

本研究では、それを展開して、中心市街地全体における観光客や住民の歩行行動への誘導や歩行環境の快適性を検討し、中心市街地の活性化に寄与することを目的とする。

3 研究の内容

昨年度までの研究成果の下田市観光案内所、中心市街地へ観光客を誘導するためのデザイン構想案を展開し、中心市街地全体の環境のわかりやすさや歩行の快適性をデザインの視点で検討・提案した。

4 研究の成果

(1) 当初の計画

昨年度研究したモデル事業施設への誘導計画のデザインに基づき、部分的な試作と地域との意見交換を行い、デザイン効果などを検討する。

(2) 実際の内容

今年度もコロナの影響で下田市を何度も訪問することはできず、現場での試作活動は中止した。昨年度の誘導計画（環境が歩行者を誘導する仕組み）を改善し、中心市街地全体のわかりやすい歩行環境の仕組み、既存交通調査に基づく外周道路の提案、歴史資産を尊重した商店街街路の提案、現地での駐車場調査に基づく歩行環境の改善提案を行った。

(3) 実績・成果と課題

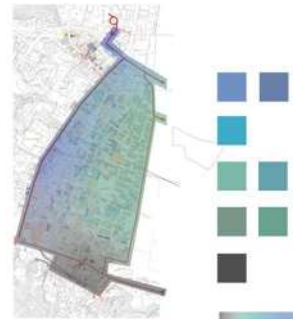
① 誘導計画の改善について

昨年度（2020年度）では、下田駅のサイン色彩であるブルーとペリーロードからイメージされるブラ

ックの2極のグラデーションで場所の認識をする仕組みとしたが、よりわかりやすい仕組みとして、3極のグラデーションによるカラーリングで場所の認識をする形とした。これによって色彩の認識のバリエーションが増え、わかりやすさの向上を見込むことができる。



2020年度提案の2極のグラデーション



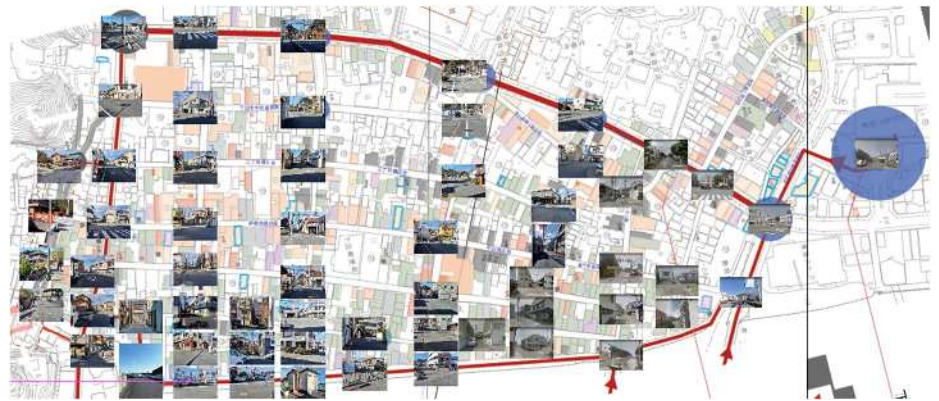
2021年度提案の3極のグラデーション

②中心市街地のわかりやすい歩行環境

3極のグラデーションに基づき、歴史的な町割りが持続している商店街のまちかどに固有の色彩を設定した。これに基づいて舗装やシャッターなどのカラーリングを行うことで場所の認識性を高める計画である。現場の景観と色彩のバランスを今後検討していくため、現場の各地点の調査を行った。



まちかどに設定した色彩



まちかどの現地調査

③外周道路の提案(歩きやすく歴史的資産を尊重した歩行環境)

下田市都市計画道路の必要性再検証（平成28年）によると、商店街中央部に東西に計画されていた都市計画道路は、社会環境の変化（人口、観光客の減少、施設の移転、歴史資産の重視など）により見直され、廃止されている。また、マイマイ通りや大川端通の交通量は、通過交通が少ないので、将来自動車交通量は、1800台/日以下と低い水準に抑えられる予測である。

提案では、マイマイ通りは、現状より歩行者優先的な空間とし、歩きやすくすることで駅からペリーロードへの誘導性を高める。これまでの歴代学生の調査行動を鑑みると、ペリーロードを経て商店街に入

った方が、興味を促進されている様子が窺えたことが大きな理由である。また、駅前の店舗はお土産販売が主なので、最初に通過しても帰りに来客が期待できる。また、歩道の整備について、マイマイ通りに分断された神社仏閣への参道を意識できるようなデザイン（マイマイ通りを参道が横切ったデザイン）とし、歴史遺産を点的だけではなく、線的、景観的に意識できるような環境とする。



マイマイ通り（緑）と大川端通り（黄）による外周道路



マイマイ通り（緑）を横切るデザインの参道

④駐車場のデザインによる歩行環境整備

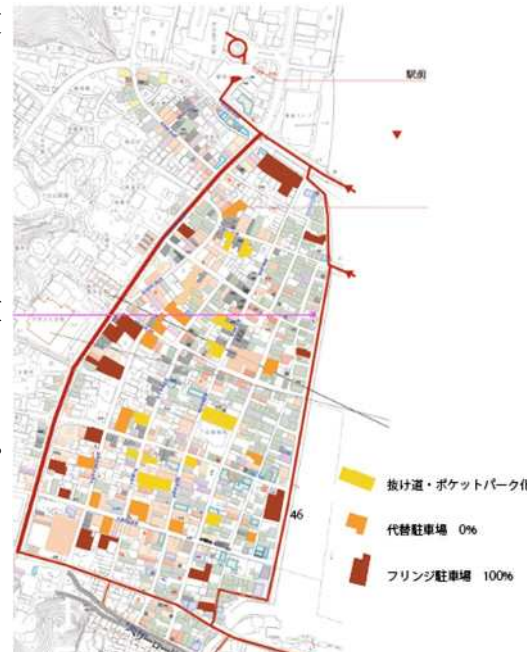
歩行環境の向上のためには、外周道路の整備とともに商店街の道路網を走行する自動車交通への対策が必要である。これも学生による調査行動の中で、商店街を往来する自動車の危険性が指摘されている。

今後の社会環境を考慮すると、観光だけではなく健康にもつながる歩行・・・散歩したくなる環境はますます価値が高まるだろう。さらに自動運転など車社会にも変革が起き、車と歩行に対する価値観やバランスが変わってくると考えられる。

現状は、商店街の中ほどにも駐車場が分布し、日常生活の中でも自動車の走行が当たり前の意識となっているが、このような状況や考え方の見直しも必要であろう。

計画では、現状の駐車場の分布を

- ・外周道路に車を流すフリンジ駐車場
- ・外周道路付近の駐車場敷地に移行させる代替駐車場
- ・駐車場以外の機能（抜け道やポケットパーク）を一部に付加した駐車場



駐車場の分布と改変計画

に分類し、時間帯の制限も考慮しながら、徐々に車優先の商店街から歩行者優先の商店街に移行させていくことを提案している。

5 地域からの評価

下田市役所でのミーティングにおいて、以下の評価をいただいた。

(商店街関係者、下田市企画課 関係部局 出席)

- ・わかりやすく歩きやすい環境づくりには、基本的に合意をした。買い物に直結しなくとも健康づくりなどの歩く価値を確認した。
- ・まちかどの色彩については、景観上齟齬にならないように、詳細なデザインや現地での確認が必要との意見をいただいた。
- ・同様に、シャッターなどのデザインについても、景観に配慮するとともに、推奨ルートの案内をするなどの機能を入れるアイデアが出された。
- ・駅構内の観光案内所と、モデル事業になっている商店街側の観光案内所を統合する考え方もあると指摘された。
- ・3極のグラデーションはよいが、海側の色彩が現地の海と合っているか、確認するように指摘があった。